

# 食ふ顔はかがやきてこそ小鳥来ぬ

藤田湘子

湘子は食べることが大好きであつた。酒の肴を手作りしたり、鼈貝のものを取り寄せたり、旅先で立ち寄る店を楽しみにしたり、湘子流のこだわりがあつた。

掲句は「鷹」平成十六年十二月号掲載。死去する前年の七月、腸閉塞で一時入院した後の作である。同時発表句に「おいそれと死ぬ気はなしよ餅を食ふ」があり、好物の餅を食べて英気を養っているさまが想像できる。

「食ふ顔はかがやきてこそ」と読めば、反対のさまも思い浮かぶ。命の危機をやり過ぎた後の、食べることへの万感の思いであろう。

「小鳥来ぬ」で小動物のいのちへの賛歌と、時間への感慨も感じられる。

2004年 (H16) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京